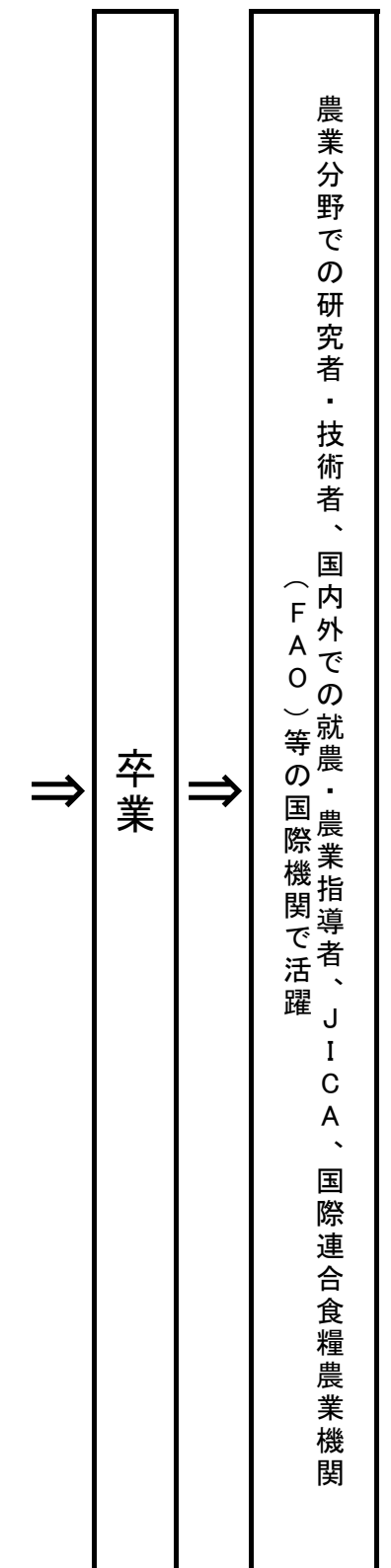


Japan-Expertプログラム(アグロノミスト養成コース)入学後の学生における標準履修モデル

就職先

		1年		2年		3年		4年		合計	
		10~3月	計	4~9月	10月~3月	計	4~9月	10月~3月	計		4~9月
基礎科目	共通科目	総合科目	Japan-Expertフレッシュマンセミナー	1	フレッシュマンセミナー 学問への誘い	1			総合科目(学士基盤科目)	1~3	4
		第1外国語	日本語	15							15
		第2外国語			英語	4					4
		体育	体育	1	体育	1	体育	1			3
		情報			情報リテラシー(講義) 情報リテラシー(演習) データサイエンス	1 1 2					4
	国語 I			国語 I	1					1	
	関連科目			Japan-Expert共通科目、Japan-Expert選択科目 など	1 + 7 以上					8 以上	
	専門基礎科目			Japan-Expert総論、生物資源科学演習 ※必修の生物資源科学実習については2年次春学期に履修 生物資源の開発・生産と持続利用、生物資源としての遺伝子とゲノム、生物資源と環境、生物資源学にみる食品科学・技術の最前線 資源生物学、化学、物理学基礎数学、経済学 I、II 表4-3に掲げる他学類開設の専門導入科目 ※統計学入門については2年次春学期に履修 生物資源フィールド学実習、生物学実験、化学実験、数理科学演習 物理学実験☆、地学実験☆	必修 3 選択必修 3 以上 講義科目 11 以上 実験・実習・演習 1 以上	生物資源科学実習 統計学入門				18 以上	
	専門科目					植物生理学、生態学、植物遺伝学、有機化学、分子生物学、実用解析 I、流れの科学 I、熱・物質移動の科学 I、土の物理学 I、生物資源経済学、森林資源経済学、農村社会学、作物生産利用学、園芸学、資源植物保護学、資源動物学、環境化学 生物資源生産学実習 I、生物資源生産学実習 II、環境工学基礎実験、統計学基礎演習 など(※1)	必須 21 + 10 以上	作物生物学、作物生産システム学、植物育種学、野菜生産学、果樹生産利用学、植物病理学、応用動物昆虫学、動物生産学、森林育成学、生物統計学、森林植物学、土壌科学、植物栄養学、植物環境応答学、環境保全科学、生物機械工学、農村・農地工学、資源開発経済学、アグリビジネス論、国際技術交流論、農林業政策論、食料経済分析論、生物生産システム学演習、生物機械工学実習 など(※2)	必須 16 + 8 以上	53 以上 62 以下	
						専門語学 I	2	専門語学 II (2) Japan-Expertアグロノミストインターンシップ (2) 卒業研究 (10)		16	
	単位数	17程度	38程度	38程度	36程度	10程度	139 以上				
	自主学習	初年次教育の日本語学習に加え、卒業時までCEGLOCの「補講日本語コース」を履修することが望ましい ⇒就業力のある日本語能力獲得のため4年間継続して日本語を学習することを強く推奨する									



※1：必須は、学類長が指定する専門科目 I 科目群より選択する。
 ※2：必須は、学類長が指定する専門科目 II 目群より選択する。
 ※：太字は必修科目を、()内の数字は単位数を表す。
 ☆：教育職員免許状等の資格取得希望者を優先する場合がありますので注意すること。